

令和 5 年度 日野市平和事業

平和派遣事業成果報告書

< 沖縄・長崎・広島 >



日 野 市

目次

1	平和派遣事業の趣旨・目的	1
2	平和派遣事業概要	1
3	平和派遣事業報告会	1
4	広島伝承者平和講話会	2
●派遣者発表 沖縄		
南平小学校	6 年	しが ふうか 志賀 風香 さん 4
●派遣者発表 長崎		
潤徳小学校	5 年	むらうち さく 村 内 朔 さん 9
●派遣者発表 広島		
日野第三小学校	3 年	おがわ さやか 小川 清香 さん 14
日野第四中学校	1 年	かつかわ りりこ 勝 川 凜々子 さん 18
仲田小学校	6 年	きむら りょうが 木村 涼雅さん 22
日野第五小学校	4 年	さとう ゆうき 佐藤 勇樹 さん 26
日野第五小学校	6 年	しもだ けんたろう 下田 健太郎 さん 29
桐朋学園小学校	1 年	たかはし さくたろう 高 橋 咲多朗 さん 32
日野第四中学校	1 年	なかの はくと 中野 珀人 さん 35
滝合小学校	5 年	ふじはら まさき 藤 原 将希 さん 39
仲田小学校	6 年	やまだ しょうま 山田 奨真 さん 42
来場者アンケート		45
日野市民憲章／日野市核兵器廃絶・平和都市宣言		47

1 平和派遣事業の趣旨・目的

平成 26 年から始まった日野市平和派遣事業は、第二次世界大戦下で多大な戦火に遭った「広島」「長崎」「沖縄」の各所に、市内在住の小中学生及びその保護者を派遣し、平和について学んでいただく事業です。

また、学んでいただいた内容を発信し、広く市民と共有していただくことで、二次的な平和意識の伝播を促進し、日野市民全体への平和意識の啓発を図っています。

2 平和派遣事業概要

派遣期間 令和 5 年 7 月～10 月

派遣先 広島、長崎、沖縄

派遣者 下表のとおり

(発表順、敬称略)

派遣先	派遣児童生徒	保護者
沖縄	志賀 風香	志賀 由佳
長崎	村内 朔	村内 和樹
広島	小川 清香	小川 明日香
	勝川 凜々子	勝川 鹿子
	木村 涼雅	木村 麻美
	佐藤 勇樹	佐藤 英樹
	下田 健太郎	下田 恵子
	高橋 咲多朗	高橋 華子
	中野 珀人	中野 遼子
	藤原 将希	藤原 浩司
	山田 奨真	山田 敏弘

3 平和派遣事業報告会

お集まりいただいた皆様に、派遣された皆様の思いを発表していただきました。発表された生の声に、参加者はそれぞれ平和への思いを馳せました。

日時 令和5年11月12日(日)

会場 多摩平の森ふれあい館 集会室6



4 広島伝承者平和講話会

平和派遣事業報告会と同日に開催。広島市から被爆体験伝承者の方を招き、被爆体験者から受け継がれた貴重なお話を伺う講話会を開催しました。

日 時 令和5年11月12日(日) 14時30分から16時40分まで

場 所 多摩平の森ふれあい館 集会室6

講 師 被爆体験伝承者 忍岡 妙子(おしおか たえこ) さん

参 加 費 無料

参加人数 56人

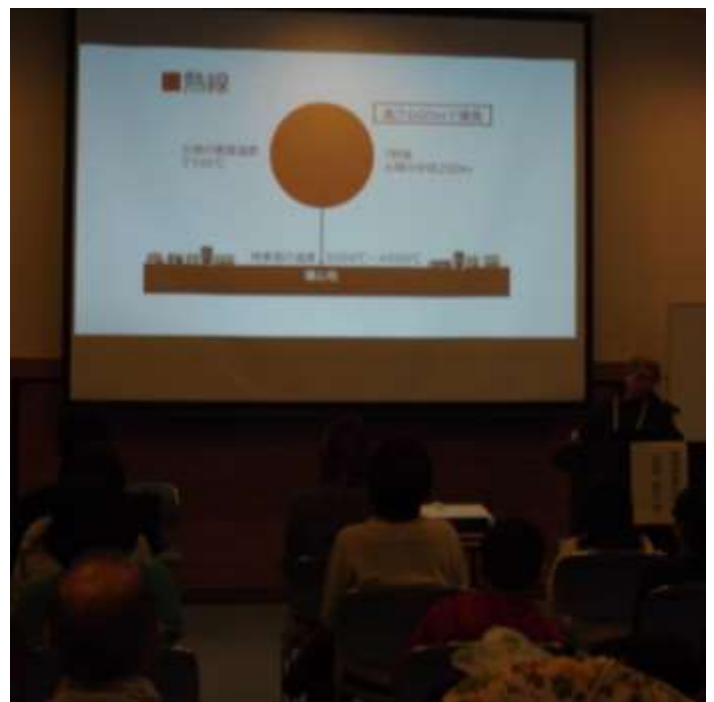
被爆体験伝承者 忍岡 妙子(おしおか たえこ) 氏 プロフィール

広島市内の小学校で37年間教員をしていました。

退職後は修学旅行生に平和公園での碑巡(ひめぐ)りのガイドをしています。

未来を担う生徒さんたちに原爆の実相と被爆体験を伝え、核兵器も戦争もない世界へとともに進んでいきたいと願っています。

2018年から広島県の被爆体験伝承者に登録し、平和のための活動をしています。



● 派遣者発表 《沖縄》



6年 ^{し が}志賀 ^{ふうか}風香 さん

私は今回、この平和事業派遣の機会を得て、沖縄へ派遣してきました。

私は生まれて初めて、戦争が日本の国土内で行われていたという事実を知りました。教科書からは「昔戦争があった」という内容を習って知っていましたが、その実際の痕跡を見たのは初めての事でした。

私は事前に戦争の事を調べてから派遣に行こうと思いました。沖縄戦が行われたのは今から 78 年前、1945 年の事です。米軍・英軍を主体とする連合軍と、日本軍の間で行われた戦いです。

敵軍の目的は日本の本州を攻撃する為の航空基地の確保、補給経路の確保ということでした。沖縄が敵の手に落ちれば、本州を攻撃しやすくなる状態でした。対する日本軍は本土での決戦を遅らせるために持久戦を考えました。日本は元々物資の少ない国です。大国に勝てるような大掛かりな手段は残っていませんでした。

私は母と一緒に見に行く場所を決めました。最初に戦いが行われたのは沖縄中部～北部ということでしたが、最も爪痕が残っているのは南部だということがわかりました。

沖縄の南部にはガマと呼ばれる鍾乳洞が多数存在しており、これは防空壕や野戦病院として使われていま



した。沖縄の広範囲で航空機による爆撃が行われました。道を歩いていると爆撃されて死んでしまいます。身を守るために、人々はガマを求めて歩きさまよったという話を知りました。

民間人が使用しているガマに、日本軍がやってきて「ここは作戦に使うから出ていけ」と言われ、出されてしまう事もあったといえます。

また、ひめゆりの塔で有名な、ひめゆり学徒隊の沖縄戦について調べました。

日本軍は兵力不足を補うために、沖縄県民を「根こそぎ動員」し、中等学校や師範学校などの10代の生徒まで戦場に動員しました。ひめゆりからは240名が看護要員として動員され、そのうち136名が死亡しました。

ひめゆりの塔を訪れると、まず最初に全員の顔写真を見る事ができました。

中に入ると、彼女らがどのような教育を受けて、どのような暮らしをしていたのか、などの紹介がありました。運動会の写真、持っていた道具、教科書やノートなども展示されていました。

彼女らの暮らしがどのように変わっていき、どのような死を迎えたのか、その順番で知っていくことができました。

彼女らは1945年3月23日の夜に学校を出発し、沖縄陸軍病院へ向かいました。兵隊の為の病院で、40近い壕があり、その中に粗末な二段ベッドが並んでいました。生徒たちの多くは、看護婦と一緒に患者の世話を行いました。尿や便の片づけ、水や食事の世話、包帯交換、死体埋葬など。

彼女らはこのような事態になることを全く知らされていませんでした。ただ戸惑い、でも逃げる事もできずに、献身的な働きをしました。

患者の食事は初めのうちはテニスボール位のおにぎりが1個、朝夕2回ありました。だんだん小さくなっていき、ポンポン玉くらいのおにぎりが1日1個になりました。

生徒たちは生理も排便もほとんどなくなり、汚れた衣服や頭にはシラミがわきました。やせ細っていき、高熱にうなされる人も出ました。足を切断する手伝いをさせられたり、お腹を空かせて苛立った兵士に怒鳴られる事も日常茶飯事だったそうです。

ガマの外で行われる作業中に被弾して、まともな医療も受けられずに死んでいった子もいたという事実も知りました。ひめゆりの塔の最後の展示は、彼女ら1人1人がどのような性格だったか、どのような体験をしてきたか、そういった内容でした。

私が今生きているこの時代はとても平和です。私は大きな病気にかかったこともないし、戦争にも巻き込まれた事ありません。これらの事実はとても衝撃的でした。



私はひめゆりの塔に花を供えました。平和記念公園の石碑に手を合わせま

した。

アブチラガマでも祈りました。ここでどれだけの惨劇が行われたのか、考えるだけで悲しくなりました。

私の気持ちが沖縄の昔の人々に届けばと思い、学びに感謝の気持ちを持ちました。そして安らかな眠りを本気で祈りました。

平和な世界をただ流されるままに生きるだけでは、戦争はまた日本で起こってしまうと思います。知ることはとても大切なことだと思います。このような機会があって本当によかったと思いました。



● 派遣者発表 《長崎》



平和派遣事業で長崎県にある爆心地公園、平和公園、長崎原爆資料館、城山小学校平和祈念館などを見学しましたので報告します。

最初に見学したのは爆心地公園です。公園には爆心地を示す石碑が置かれ、それを囲うように平和を願う色々な像が建てられていました。公園には緑の木々があり、はじめここに原爆が落とされたと思えませんでした。また、公園の脇には小さな川が流れていました。原爆が落とされた



ときにはその川の水を求めて亡くなった人たちの死体で埋めつくされていたそうです。今は魚も泳ぐきれいな川です。ぼくには、今の景色から想像することはできませんでした。ただ、とても恐い気持ちになりました。



次に見学した平和公園には、大きな噴水があり、その先には大きな平和祈念像がみえました。平和祈念像の手前には「長崎の鐘」がありました。その鐘の下には「七万二千人の人が水、水と言いながら死にました。旅のお方、花に水を与えてください。」と書かれた看板がありました。長崎を訪れたその日は、とても暑く、

持っていたペットボトルの水を弟と一緒に鐘の下のお花にあげることにしました。

次に見学したのは長崎原爆資料館です。資料館は入口から薄暗く少し緊張しました。案内人のおばあさんにお話を聞きながらたくさんの原爆に関するものを見ました。熱でガラスとくっついてしまった人の手の骨、黒こげになった服、形が



変形した食器、原爆の模型、原爆の放射能で大きくなった内臓の一部などのたくさんの資料をひとつひとつ丁寧に説明してもらいました。原爆資料館には、原爆直後の焦げた人の写真などもあり、怖くてしっかりと見る事ができないものもありました。案内人のおばあさんがぼくに「城山国民学校という被爆した小学校が今でもあるから観に行ってください。」と教えてくれました。

[城山国民学校について]

1945年8月9日11時2分、長崎県長崎市に原子爆弾が投下され、その爆心地から約500mのところに城山国民学校がありました。城山国民学校は、爆心地から最も近い場所で被爆した小学校です。

城山国民学校は、戦争が激しくなる前は、白く大きな建物で「白亜の校舎」と呼ばれていましたが、戦争が激しくなると校舎の白色が敵軍から目立つため、遠くから見ても目立たないシマ模様塗り替えられたそうです。当時は、小学校が戦争のために兵器製作所の事務所としても使われていたことを知り、驚きました。原爆が落とされたその日は、事務所に事務員や労働のために女学生が集められ、先生たちは外で草むしりをしていましたそうです。学校に在籍していた小学生は1400人いましたが、夏休みだったので、多くの子

がそれぞれの家庭で家の手伝いをしていました。女学生と先生は学校で、子どもたちは家で亡くなりました。

現在の小学校の横には、被爆校舎を改装した平和祈念館があります。受付のおじいさんが当時の様子を教えてくださいました。3階建ての学校の階段部分が爆撃で崩れ、当時、建物の中にいた人のうち2階3階にいた人たちは、焼けるような熱さ



の中、外に逃げることができずに窓から飛び降り、多くは落下によって亡くなったそうです。

今ある城山小学校には、被爆して亡くなった人への慰霊と平和への願いを込めて、嘉代子桜、被爆したクスの木の双子クス、などが残されています。祈念館にある絵の中には、自分の手で亡くなった友達を焼いた時のものや生きたまま焼かれた子の様子を描いた物などがあり、胸が苦しくなりました。

この時、ぼくは、今通っている潤徳小学校のことを考えました。もし城山小学校と同じ状況にあったとしたら、原爆が落ちる場所は高幡不動尊のあたりです。爆心地から1 kmでも建物は吹き飛びます。もし、高幡不動尊に原爆が落ちたら、僕の家は吹き飛び崩壊します。それほど原爆の威力は強かったんだなと思いました。いつも歩いているふれあい橋は爆風と熱で焼かれて崩れているはずです。浅川は爆心地公園に流れる川のように、水を求めて亡くなった人の死体が重なっているんじゃないかと思います。ぼくの家食器は溶けて服もボロボロになります。ぼくの家族や友達、先生たちはどうなっ

ただろう。原爆が投下された時の様子と重ねると、とてもこわく感じました。

[被爆のまち長崎を訪れてみて]

ぼくは、原爆について名前くらいは知っていたけれど長崎に行って、資料館や被爆の後が残る場所でたくさんの資料を見て、話を聞いて、原爆の恐ろしさについて知り、感じる事がたくさんありました。

これまでぼくは、戦争や原爆の恐ろしさや平和についてよく考えたことがなかったけれど、今でも長崎の城山小学校では平和祈念式典が毎月行われ、毎日11時2分に平和をいのる鐘と音楽が流れていることを知り、同じ小学生として、この体験を忘れてはいけないと強く思いました。

最後に、長崎では「平和祈念」という漢字をたくさん見ました。記念日の記念と違う漢字を使うのはなぜかわかりませんでした。が、「平和祈念」は平和を願っている事なんだと知りました。見学した場所ではたくさんの折りづるがありました。長崎原爆資料館では、持ち歩きやすいように平たく折られた折りづるをもらいました。城山小学校平和祈念館には、平和について学んだ日本全国や世界中の子どもたちから送られてきたという折りづるがあり、置ききれなくなっているくらいだと聞きました。この折りづるに平和を



願ういのりがこめられずっと続いています。僕も長崎で感じたことを大切にしていかなければならないと感じました。以上で報告を終わります。ありがとうございました。

● 派遣者発表 《広島》



3 日野第三小学校 3 年 おがわ さやか
小川 清香 さん

私は今回どうしても広島に行きたいと思っていました。なぜかという
と、前にはだしのゲンを見た時に、ゲンと弟が原爆ドームにのぼって卵を
食べているシーンがとても印象に残っていて、いつか本物の原爆ドームを
見てみたいとずっと思っていたからです。

広島へ行く前に、もう一度はだしのゲンを見たり、図書館で本を借りて
広島と戦争について少し調べてから出発しました。

まず、一番見たかった原爆ドーム
を見に行きました。本物の原爆ドーム
は大きくて迫力がありました。骨
組みだけになったドーム、ぼろぼろ
になった壁、ちらばっているがれ
き、写真では見えなかったところま
でしっかりと見ました。これが本当
にあったんだと思うと、言葉にだせ
ないくらいすごかったです。平和記
念資料館では被爆者伝承講話を聞き
ました。被ばく者の梶本淑子さんと
いう女性の話でした。戦争中いつも



持ち歩くのは、消毒液・ほうたい・三角巾が入った救急袋。原爆が落とさ

れたとき、工場で働いていた梶本さんは、ついにこの工場に爆弾が落とされた！
と思ったそうです。がれきの下敷きになってしまい、火が迫ってくる中、はさまった足をぬこうとしました。なかなかぬけずようやく抜けたときには足のひふは引きちぎれていました。でもこの痛みで自分は生きていると感じたそうです。聞いているだけでショックでたえられませんでした。

また戦争中は食料不足で、配給だけでは全然足りないので、親が自分の大切な着物を食べ物にかえて子供たちになんとか食べさせてくれていたそうです。口にできそうなものは何でも食べていたと聞きました。今は賞味期限や材料などをちゃんと確認してから食べるのに、戦争の時はとにかく口にできそうなものはなんでも食べていたなんて、衝撃をうけました。梶本さんが一番食べたかったのはなんと白いおむすびだったそうです。この講話で心に残ったのは「家族がそろって食事できるのは幸せ」という言葉でした。そんなことは初めて知りました。それは当たり前のことだと思っていたからです。



その他に平和記念資料館
ではたくさんのものを見ま
した。広島町のジオラマ
があり、最初は支えあって
たくさんの家が建っていた



町だったけど、原爆が落とされて、町の様子がすっかり変わってしまった
のがとても怖かったです。まるこげになった三輪車や食べられなかったお
弁当、お誕生日にもらったベルトをはなさなかった男の子などを見て、と
ても悲しくて、幸せを取り戻してあげたいという気持ちになりました。

ガラスのビンは熱さでぐにゃぐにゃにとけてもとの形がわからないくら



いにつぶれていました。そんなに熱いか
らその空間にいた人間のヒフが溶けてし
まったんだとわかりました。

原爆死没者慰霊碑から一直線に原爆ド
ームが見えるのは設計者の丹下さんが考
えたそうです。慰霊碑にきざまれたこと
ばを読みながら奥に見える原爆ドームを
ながめると、資料館でみたさまざまなも
のを思い出して、とても悲しい気持ちに
なりました。

ほかに原爆の子の像を見ました。その像はおりづるを高くかかげていて、「平和になりますように」という思いがすごくよく伝わったので、私もこれから平和のお手伝いをしたいです。

今回広島に行って、この戦争が本当にあったんだと実感し、とても怖くなりました。あんなにきれいな広島だったのに、原爆のせいで多くの人が死んでしまい、町も破壊されてしまいました。しか

も原爆の放射能はその後の長いあいだ、人々の体の中で毒になって苦しめたり、死んでしまったりしました。

こんな戦争は絶対にしてはいけない！このことをみんなに伝えたいです。私は絶対に忘れない。



4 日野第四中学校 1 年 ^{かつかわ りりこ} 勝川 凜々子 さん

私は、平和派遣事業で広島へ行きました。

まず、最初に呉市にある「大和ミュージアム」へ行きました。そこには、大和ミュージアムのシンボルの戦艦「大和」の模型、「零戦 62 型」や特攻兵器「回天」などの実物が展示されていました。東洋一の軍港だった呉で造られた、戦艦「大和」は世界最大、最強で、技術の結晶と言われていましたが、沖縄特攻作戦に向かう途中、攻撃を受けて、沈没し、3,000 人以上いた乗員のうち、9 割が命を落としました。「大和」は世界最大と言われるほど大きかったので、それが仇となり、かえって狙いやすかったのだろーうと思いました。また、特攻兵器は、死ぬと分かっているながらも多くの若い人たちが敵の戦艦に突撃しに行っていたということを知り、心が痛かったです。家族がいて、未来のある彼らが国のために犠牲となる決心をした、その心中はどんなものだったのか、計り知れませんが、戦争が生み出した悲劇だと思いました。

■大和ミュージアム（零戦 62 型の実物）



その後、広島市に移動し、「原爆ドーム」を見に行きました。原爆ドーム付近は、穏やかで時間の流れがとてもゆっくりと感じられる場所でしたが、ボロボロで今にも崩れ落ちそうな原爆ドームは、戦争による原爆投下被害の悲惨さを今に伝える建物で、当時の様子が目に浮かんでくるようでした。

■原爆ドーム



それから、「本川小学校平和資料館」に行きました。そこでは、「溶けたガラス」という展示に目が止まりました。この「溶けたガラス」は、3,000度～4,000度の高熱で溶けたもので、ガラスが溶ける1,200度をはるかに超えていて、そんな高熱で人が焼かれたと思うとゾッとしました。そして、爆心地に最も近い学校として大きな被害を受けましたが、翌年の2月には最小限の補修で授業が再開されており、教育の大切さを感じました。また、原爆症に侵されながら証言活動を行っていた、この学校で唯一生き残った児童のパネルがあり、「私の苦しい体験を通して、平和の大切さを伝えるために私は生かされている」という言葉は心に深く残り、今の平和が身にしみました。

■本川小学校平和資料館（溶けたガラス）



最後に、「広島平和記念資料館」に行きました。館内には目を背けたくなるような被爆の実態を表した悲惨で生々しい絵や写真がたくさん貼ってあり、唖然としました。それらは平和な今では想像できない、残酷さを描いたものでした。また、展示物には原爆で亡くなった人の遺品があり、私たちにそのすさまじさを伝えてくれているようでした。そんな遺品の中から私が特に印象に残ったものは、「焦げたお弁当」です。その持ち主だった男の子は、お弁当を食べるのを楽しみにしていましたが、原爆に巻き込まれ、一口も食べることができずに命を落としてしまいました。私もこの男の子と同じように、お弁当が大好きなので、その気持ちがよく分かり、悲しい気持ちになりました。そして、そんな人々の「楽しみ」を奪った原爆は改めてひどいと思いました。

私は、今回、広島を訪れて戦争や原爆によって生まれた、たくさんの悲しみや苦しみ、そして平和の大切さについて学びました。また、広島には日本人だけでなく、多くの外国人も訪れていて、学んでいるところを目にしました。現在、世界に目を向けると、ウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナでは今まさに争いが起こっています。そこで、彼らが学んだであろう原爆の恐ろしさや平和について、自国や世界中に伝えていってほしいです。

こういう一人一人の行動が平和の維持・拡大につながっていくと思うので、私も広島で学んだことを、まずは身近な人から伝えていきたいです。

■原爆死没者慰霊碑（平和記念公園）



■広島平和記念資料館



ぼくは平和派遣事業で広島へ行きました。

2 年前に友達が同じ平和派遣事業で発表していたのを見たことがきっかけで戦争の悲惨さを自分の目で見て感じてみたいと思いました。

< 1 > まず初めに、「原爆ドーム」を目の当たりにしました。



アメリカ軍が落とした核爆弾で、約 14 万人ほどの人たちが亡くなったことは、なんとなく耳にしていたましたが、目の前にすると、言葉が出ませんでした。そして、特に思ったことは、よく、この状態で残っていたなと驚きました。それと同時に悲惨さも

感じました。

< 2 > 次に平和記念公園内を歩きました。

公園の周りも含め、至る所に慰霊碑があります。特に印象的だったのは、「原爆死没者慰霊碑」から見る「平和の灯」です。核兵器が廃絶されるまで消えることのない灯火。そ



して今ロシアとウクライナやイスラエルとハマスで戦争が行われています。核兵器が使用される前に、一刻も早く、やめさせなくてはなりません。

< 3 > 平和記念公園内にある「レストハウス」では、地下に資料を取りに

行き、奇跡的に生き残った、故・野村英三さんの被爆体験記があります。野村さんは 1945 年 8 月 16 日午前 8 時 15 分の少し前、いつも机の上にある資料がなかったため、自分で地下室に取りに行ったところ、難を逃れました。偶然がいくつも重なった結果によるものですが、そもそも、戦争を



していなければ、核爆弾が投下されなければ、野村さんをはじめ、広島にいた全ての人々の命が亡くなっていないと思います。

< 4 > 「平和記念資料館」では、痛々しいやけどの写真や、血まみれになったボロボロの衣服、焼け焦げた三輪車など、様々なものが展示されていました。ぼくは正直、これらを直視することができませんで



した。どれだけ悲惨な状況であつたかが、すぐに分かりました。さらに先へ行くと、核兵器の危険性というコーナーがありました。広島、長崎と立て続けに核爆弾が落とされ、悲惨な状況になったのを目の当たりにしても、まだ、人間が核

兵器を作るという行動が、ぼくにはよく分かりません。危険なものだと認識しているのなら、一刻も早く廃絶してほしいです。

< 5 > そして、「大和ミュージアム」にも行きました。戦艦大和 1/10 模型や、魚雷の模型などが展示してありました。当時、世界最強といわれた、戦艦大和が、第二次世界大戦において沖縄特攻作戦に向かう途中でアメリカ軍の攻撃を受けて、沈没したのは衝撃でした。世界最強の船であっても、どうにもできないことがあるのだと思いました。しかし、その時の技術は今に至るまで、引き継がれているようなので、日本の技術力の高さに驚きました。

今回の広島訪問を経て、今、世界で行われている戦争は、改めて、良くないと思います。そして、やめるべきであると思います。特に爆弾を使って、何も罪のない人たちが亡くなることは何があっても絶対にあってはなりま

せん。被爆された方々は、高齢化で核爆弾の恐ろしさを語り継いで行く人がだんだん減ってきています。けれど、とても大切なことなので、今の子供たちが、戦争について、もう少し真剣に学ぶべきだとぼくは思います。

ぼくたちは今、とても楽しく、幸せに毎日を過ごしています。けれど、毎日が楽しく幸せに過ごすことはあたり前と思わないように、普通に過ごせる幸せさやありがたさを感じながら、これからも過ごしていこうと思います。



ぼくは、7 月 30 日から 8 月 1 日まで、広島に行きました。広島に行こうとしたきっかけは、日本の歴史マンガから、戦争にきょうみを持ったからです。日本でも戦争があって、78 年前に広島に原ばくが落とされたことを知り、広島に行ってどんなことが起きたのかを確かめたいと思いました。

最初に、原ばくドームに行きました。原ばくドームは、広島県の物産を展示・販売していた建物でした。1945 年 8 月 6 日の午前 8 時 15 分に、アメリカの B29 は、ドームのそばの相生橋（あいおいばし）めがけて、原ばくを落としました。町は一しゅんで破壊され、多くの人亡くなりました。ドームは鉄筋コンクリート製で、全ては壊れませんでしたでしたが、実さいに見てみると、屋根やかべの一部がなかったり、鉄骨の柱だけになったりしていて、ひどかったです。



次に、平和記念公園に行き、ガイドさんに案内してもらいました。印象に残ったのは、原ばくの子の像のモデルになった、佐々木さだ子さんの話でした。さだ子さんは、原ばく症になりましたが、つるを千羽折ると病気が治ると信じて、つるを折ったそうです。今では、平和を願って、世界中からたくさんの折づるが届けられ、像の周りに飾られています。

ガイドさんの話が終わってから、原ばく資料館に行きました。先ほど話を聞いたさだ子

さんの資料もありました。さだ子さんには、中学校の先生になる夢がありましたが、12才で亡くなって、夢がかなわず、くやしかったらうと思います。

原ばく資料館には、広島の方に原ばくが投下される前と後の様子を再現したバーチャル映ぞうもありました。原ばくが投下されて



1秒後に、ばく風で家が飛ばされて、焼け野原になった様子を見て、原ばくがとてもおそろしいと思いました。また、お弁当の中身がこげて石炭みたいに真っ黒になっていたことが、印象に残っています。そのお弁当の持ち主の学生がどうなったか心配になりました。



次の日に、呉(くれ)市の大和ミュージアムに行きました。戦かん大和は史上最大の戦かんでした。入ってすぐに10分の1サイズに再現された模型があり、大きさに驚きました。

館内では、ガイドさんの話を聞きました。大和は46センチ砲を備え、発射すると40キロも

飛んだそうです。その攻撃力は、1発で戦かんを沈めることができるとされていました。けれども、実際には、大きな戦果を上げることはできませんでした。戦争では、長距離を飛べる航空機が活やくしたからだそうです。

1945年4月、アメリカ軍は沖縄本土に上陸を開始しました。これを受けて大和も沖縄に向かいます。けれども、九州の最南端でアメリカ軍の航空機の攻撃を受け、撃沈されてしまいました。

ぼくは、そんな大きな戦かんが航空機の攻撃で沈んだことに、驚きました。また、乗員約三千人のうちの九割が戦死して、生かん者が一割しかいなかったことを知

り、衝撃を受けました。

ぼくは、今回広島に行き、原ばくドームや資料を見たり、ガイドさんから話を聞いて、戦争のことをよく知ることができました。

また、原ばく資料館では「被ばく体験伝承者」から、話を聞きました。「被ばく体験伝承者」は、被ばく者が高齢



化して、話をするのが難しくなってきたため、被ばく者の代わりに、戦争の話を伝える人です。ぼくが話を聞いた伝承者の方は、大阪から来たそうです。

後から、伝承者になるためには、二年間も研修が必要だと知り、大変だと思いました。でも、戦争の怖さを伝えていくためには、大事な取り組みだと思っています。

戦争が起きると、多くの人が傷つけられて、命が失われます。ぼくは、戦争は絶対にしてほしくないと思います。これから、友達やいとこたちにも、原ばくや戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。

7 日野第五小学校 6年 ^{しもだ けんたろう} 下田 健太郎 さん

1945年8月6日8時15分広島県広島市に世界で初めて原子爆弾が落とされた。あたりは閃光に包まれまるで地獄のよう。そして一瞬にして人々の日常や幸せ、命さえも奪ってしまったのだ。

僕はこの夏休みに広島県呉市と広島市を訪れました。広島市に出た時はこんなところに原子爆弾が落とされたのかと思うほど活気が良い街でした。人も多く、街並みもとても綺麗で賑わっていました。しかし平和祈念資料館に向かっている途中から戦争の爪痕が出てきました。原爆で亡くなった方達の慰霊碑や原爆ドームなど間近で見ると戦争の悲惨さがものすごく伝わってきます。慰霊碑はたくさんあり、たった一つの原子爆



弾でものすごくたくさんの人が亡くなってしまったのがわかります。その周りにはたくさんの観光客がいて戦争の恐ろしさや悲惨さを感じていました。平和記念公園を通り、平和記念資料館に着きました。見学中、みんな一言も喋らず黙々と展示を見ていました。それほど辛い内容だったのです。たった一つの原子爆弾でこんな残酷な状態になるとは思っていませんでした。焼けただれた服やお弁当、

人が座っていたところだけ濃くなっているレンガの階段などがありました。みんないつもの日常を過ごしていたのです。他にも後遺症にかかってしまった人の実際の写真などを見て、今ではあり得ない光景を見せられて、そのことが頭から離れませんでした。なぜ何も罪を犯していない人たちがこんな大量に犠牲にならなければいけないのか僕は考えさせられました。被爆者は日本人だけではなく、アメリカ、中国、東南アジアやロシアなどの留学生も原子爆弾に襲われ命を奪われたのです。



今回の視察で特に印象に残ったのが高倉信子さんです。この方は14歳で被爆し、なんと爆心地から約300mで被爆しました。高倉さんの話によると、「逃げるところもない一面の炎。炎が道路いっぱいに渦を巻いて大手町の方からやって来た。後に黒い雨がふり、みんな飲もうとした。粒の大きさは当たると痛いくらい。広島全体が赤・黒・茶色に染まった」と話していました。信子さんの話を元に平和記念資料館

に展示されてあった写真や服などと繋がり核兵器の恐ろしさがより分かりました。

ー平和へー

僕たちのゴールは戦争をなくすことではありません。核シェルターなども必要のない平和な世の中です。その小さな第一歩として僕は平和について学んだのです。平和記念資料館に行って戦争の悲惨さや核兵器の怖さを知った今、僕は一体何をしなければならないか分かっています。「戦争をなくし、誰もが幸せになれる平和な世の中」にすることです。今でもロシアやウクライナなどで戦争が起こっています。こんなこと誰も望んでいないのです。だから、戦争の怖さや悲しさ、平和記念資料館で学んだことを胸に、平和にするために僕にできる事を精一杯頑張りたいです。



8 月 25 日から 2 はく 3 日
で平和きねんこうえん、平
和きねんしりょうかん、追
悼平和きねんかん、げんば
くドーム、あいおいばし、
ばくしんち、おりづるタワ
ーに行きました。



平和きねんこうえんはたくさん
の木がありみどりがゆたかで、
とてもひろくてきれいなこうえ
んでした。たくさんの人がこら
れていました。がいこくのかた
もたくさんいらっしゃいまし

た。こんなきれいなところのすぐちかくで 78 年前にげんしばくだんがおと
されてたくさんの人が亡くなり、たてものがこわされたいへんなことにな
ったということがしんじられませんでした。

げんばくドームは、もともとは、ひろしまけんさんぎょうしょうれいかんというたてものでした。げんしばくだんがおとされたあと、そのときのすがたのままたちつづけています。平和きねんしりょうかんの中に、こわれる前のげんばくドームのもけいがありました。もともとのたてものはとてもりっぱなたてもので



したが、すぐちかくにげんばくがおとされたことでいっしゅんにしてしまのすがたになってしまいました。げんばくがおとされたときに、このたてものの中ではたらいていた人がぜんいん亡くなりました。



あいおいばしは、げんばくドームのすぐちかくにあるはしです。このはしは、そらからみるとTじがたをしているため、げんしばくだんをおとすもくひょうにされていました。じっさいには、あいおい

ばしからは 300 メートルはなれたびょういんのじょうくうにおとされまして。ぼくはこのはしをわたりました。かなしいきもちになりました。

ぼくがいったひろしまの

まちはとてもきれいなま

ちでした。しかし、

1945 年 8 月 6 日ごぜん

8 じ 15 分にげんしばく

だんがおとされ、しんじ

られないくらいおおくの

いのちがうばられ、まち



もこわされてしまいました。せんそうは、ひとのいのちをうばいます。どんなひとのいのちもひとつしかありません。みんなのいのちはとてもたいせつなものです。だからぼくはせかいじゅうがへいわになってほしいです。

みんなおなじにんげんです。ぼくはじぶんのいのちもひとのいのちもたいせつにしたいとおもいました。

9 日野第四中学校 1 年 なかの はくと 中野 珀人 さん

私は、広島で原爆の脅威、恐ろしさを学びました。1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、相生橋に目がけて、原子爆弾が投下されました。実際には、そこから約 270 メートル離れた島病院の上空約 600 メートルで炸裂しました。

これは、東京スカイツリーの高さと同様です。私はこの夏、その近く

まで行ってみましたが、かなり近い上空で爆発したのだと感じました。

何故その地点であったのかというと、地上の建物・人体に与える威力が最



大だったからです。よって、爆発した瞬間、「バツ」とくる白い閃光は、1 秒後には半径 200 メートルを超える 100 万度以上の火球となりました。爆心地周辺の熱線は、爆発 0.2 秒から 3 秒までの間に、鉄が溶ける温度の 2 倍以上である、3000 度から 4000 度にも達しました。よって爆心地から約 3.5 キロメートル

離れた所でも肌が火傷するほどでした。1945 年末までに約 14 万人以上の方が苦しみながら亡くなりました。 また、同時に放射線が大量に放出され、建物を貫通し、人体の奥にまで入り込み、細胞が破壊され血が変質されました。

当時中学 2 年生だった高橋昭博さんは、朝礼のため集まった校庭で被爆しました。皮膚が垂れ下がり、右手人差し指の爪の根元にガラス片が突き刺さり、その後、分厚い、黒くて長く、堅い爪が生え続けました。この爪には血管が通っていたため、切ると出血するので、自然に落ちるまで待つしかありませんでした。



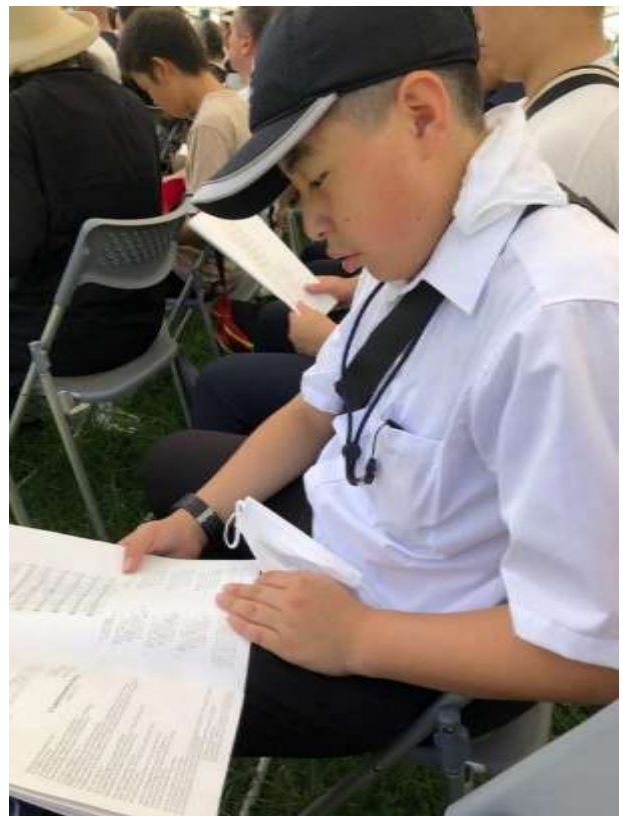
また被爆して 5, 6 年経ってから白血病、甲状腺がん、乳がん、肺がんなどの患者が増加しました。これらは後障害といい、被爆者の心身や彼らの社会生活そのものを破壊し尽くしました。78 年経過した今でも、癒えることのない放射線の被害はとても恐ろしく、二度と引き起こしてはなりません。

しかしながら、核兵器に依存した世の中が続いています。アメリカなど核保有国が存在し、その中でも戦争を続けているロシアはウクライナに対して、核兵器使用をほのめかしています。しかし、一度でも核兵器を使用したら、取り返しがつかない甚大な被害を、人類や環境に与えてしまいます。

国際社会では、核兵器を作らない、実験しない、使用しない、保持しないなどの動きが広がっています。例えば、2017年、国連では、国連加盟国の6割を超える122カ国の賛成により、核兵器禁止条約が採択されました。

しかし被爆国、日本は参加や署名すらしていません。

私はこの派遣を通して、初めて広島平和式典に参列しましたが、ものすごく暑く36.9度にまで達していました。そんな中で、体や鉄、ガラス瓶が焼けて溶けるほどの熱が、3秒以内に加わるというのは、想像しただけで胸が苦しくなります。



爆心地から一番近く、児童の明るい声が聞こえていた、モダンでレンガ造りの本川小学校や、原爆ドームといわれる建物はかつて、チェコの建築家

が水辺を意識して、設計したレンガ造りで、夜にはイルミネーションが施されるほど凝られていました。



そんな賑わっていた都市、広島を一瞬で破壊したこと、被爆した人たちが差別や偏見がある中で、どのように、頑張っているのか、そして今なお被爆で苦しんでいる方の思いを、これからも多くの人たちに伝承していきたい、そして二度とどの人類も核兵器を使用するとはならないと、この平和派遣事業で強く思いました。

業で強く思いました。

僕が広島の実爆ドームと、原爆資料館に行
って思ったことは3つあります。

1つ目は「原爆ドーム」です。

初めて原爆ドームに行って、下に落ちてい
たレンガの破片や、コンクリートの破片な
ど見て、あんなにも硬いレンガやコンクリ
ートが、こんなに小さく砕けてしまう原爆
の強さがわかりました。



そして原爆ドームのレンガが焦げてまし
た。どんなにすごい熱だったんだろうと
思いました。

2つ目は「地球平和監視時計」です。

原爆資料館に入ってすぐのところに、地
球平和監視時計がありました。この地球
平和監視時計というものは、「広島に原



爆が落ちてからの日数」と「最後に行われた核実験からの日数」が表示さ
れています。そして地球平和監視時計だと、広島に原爆が落とされてから

28491日がたっていて、最後の核実験から691日がたっていました

(8月8日調べ)。それを見て僕はメモを取りました。理由は「核の無い世界にしよう」とみんなで言っているのに、2年前に核実験をしていてびっくりしたからです。

3つ目は、展示物を見てぼくはとても悲惨なことがあったんだと思いました。

その中でも記憶に残ったのは、「中身が炭になっていたお弁当箱」です。



爆心地から600m 中島新町
折免シゲコ寄贈

中学一年生の人が建物疎開の仕事をしていて、被爆し、お母さんが遺体の下にあったのを見つけたそうです。僕と同年ぐらいの人が夏休みに仕事



をしていたこと。そして、楽しみにしていたお弁当を食べることなく突然死んでしまったからです。そしてこのお弁当箱を見つけたお母さんは、どんなに悲しんだんだろうと思いました。アメリカのバイデン大統領もG7サミットのときに原爆資料館に来ましたが、僕が行った時も、来館者の全体の60%ぐらいの人が外国人だと思いました。

いろいろな国の人と、ほんとうに「核の無い平和な世界」を作れるようになったら良いなと思いました。



ぼくは、平和派遣事業で広島に行きました。なぜ広島を選んだかというと、広島は世界で初めて原子爆弾が落とされたからです。

はじめに原爆ドームを見ました。今にも崩れそうな原爆ドームを見てどれだけすさまじい破壊力だったかを語ってくれた気がします。



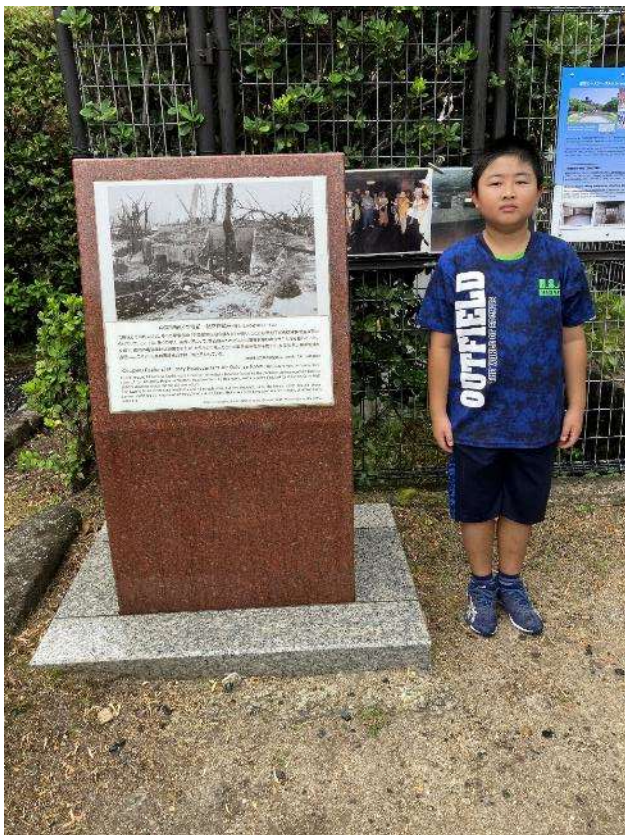
次に爆心地に行きました。そこは今も昔も病院です。原爆ドームのすぐ近



くにあります。1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分 17 秒に原子爆弾が投下され上空 600 メートルでさくれつしました。この高さで原爆ドームがボロボロになったので、どれくらい恐ろしいのかもわかりました。

次に広島平和記念資料館に行きました。ここは、なくなった子供の写真や遺品など様々なものが置いてありました。一人一人コメントが書いてあり悲しいことばかりでした。遺品は、革のベルトや三輪車やハン

カチなどいろいろ置いてありました。
原子爆弾が投下された直後の写真もあり
朱色の煙が伸びていました。爆弾一
発で、こんなにも大勢の人がなくなる
とは恐ろしく感じました。次に広島城
に行きました。ここは原子爆弾が落と
されたことを外部に最初に知らせたこ
ろです。その城の石垣は原子爆弾の
えいきょうで赤く変色していました。



被爆樹木もありました。この城は戦前
に国宝として指定されていました。原
爆ドームから離れていてもえいきょう
は変わらず、広い範囲で多くの建物が
壊されたと気が付きました。

次に大和ミュージアムに行きました。
戦艦大和の10分の1サイズの模型を
見ました。ゼロ戦を一部復元されたも
のもありました。特攻隊の映像があり

若い人の命が散っていきました。僕は、特攻隊の人が何を考えていたのかわ
かりません。

最後に広島に行ってみての感想はこのすべてのつらいことは戦争をしなければ起きなかったことです。このようなことが二度と起きないように願いそして僕たちに今何ができるか探してみます。

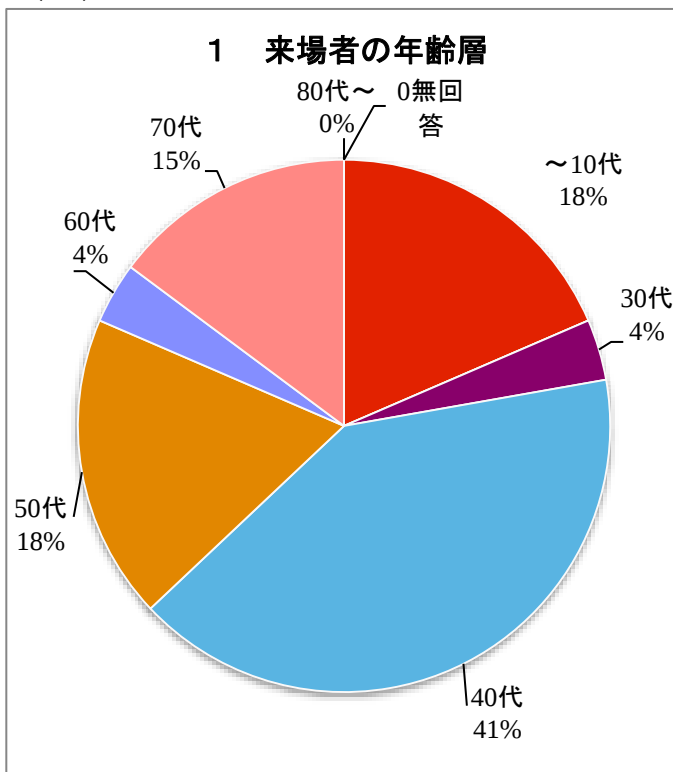




来場者アンケート



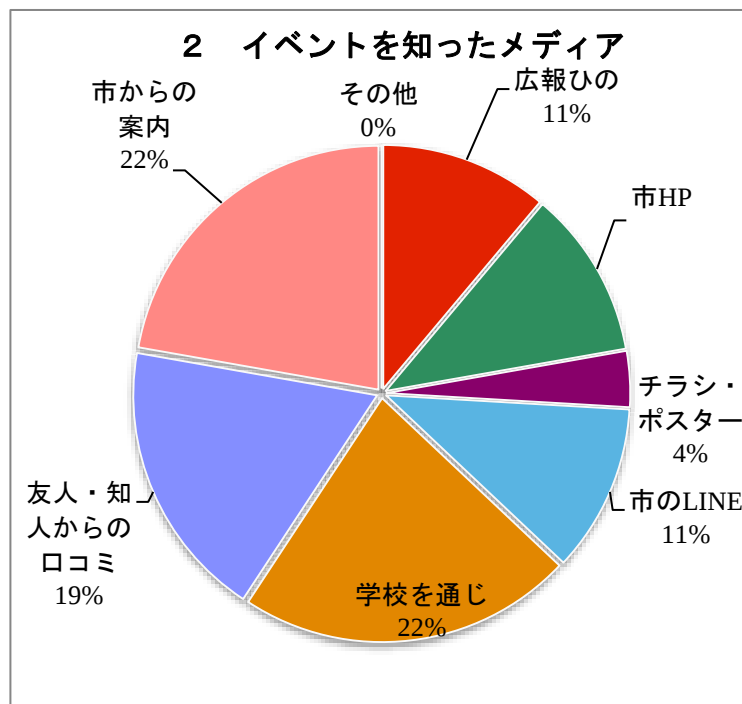
(1) 御来場者の年齢層



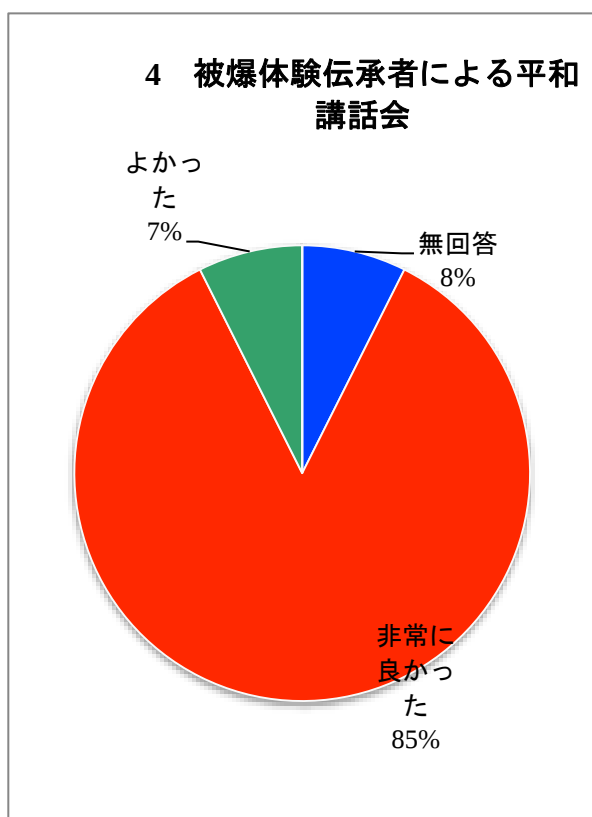
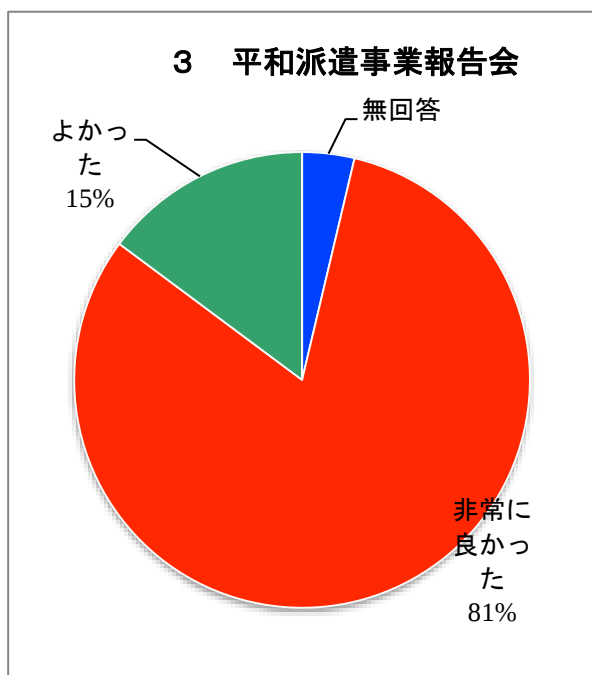
幅広い年代の方のご参加がありました。今後もあらゆる世代の方に来ていただけるようにしていきたいと思います。

(2) イベントを知ったメディア

「広報ひの」や学校を通じて配布したチラシ、LINEをなど、皆さま色々なメディアで知ってご参加いただきました。LINEの割合が、昨年より上がっています。



(3) 感想



参加された多くの方が「よかった」、「非常によかった」と回答されており、大変好評でした。自由記載の欄では、「皆さんとてもよく学習され、気持ちの伝わる発表でした。ぜひこれからも平和を伝えていく人でいてほしいと思いました。」「伝承者講和で当時の考え方がおかしい事をあえて答えを言わず、問いかける話し方が印象的だったし、良かった。」などのお声をいただきました。

「大変よい事業を、今後も継続して下さい。」とのお声もいただきました。今後も継続してまいりたいと考えています。

日野市民憲章／日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

日野市民憲章

昭和 58 年 1 月 1 日制定

わたくしたち日野市民は、多摩川・浅川につづく平野と丘陵の自然環境に恵まれたこのまちを、生活の中のふるさとと考へ、みんなのしあわせのためにこの市民憲章を定めます。

- 1 元気に働き いきいきとして 心ゆたかなまちをつくりましょう
- 1 手をつなぎ とともに健康で 明るいまちをつくりましょう
- 1 自然を守り 緑と清流と太陽の 美しいまちをつくりましょう
- 1 人を大切にし 弱い人にも子どもにも 思いやりのあるまちをつくりましょう
- 1 文化をつちかい うるおいのある 平和なまちをつくりましょう

日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

昭和 57 年 10 月 8 日議決

巨大な量の核兵器は、米ソ両国の戦略兵器制限交渉などをもつてしても、もはやその拡大を止められない事態となつている。

ひとたび核兵器が使用されることになれば、その結果は全人類とその文明の滅亡であることはいふまでもない。

日野市は、核兵器が地球上から姿を消す日まで、その廃絶を叫び、平和が市民生活の基本であるとの理念のもとに、ここに日野市が核兵器廃絶・平和都市であることを宣言する。

令和 5 年度日野市平和事業 平和派遣事業成果報告書＜沖縄・長崎・広島＞

令和 6 年 3 月 発行

発 行 日野市企画部平和と人権課
東京都日野市多摩平 2 丁目 9 番地
多摩平の森ふれあい館
電話 (042) 584-2733

